

平成 27 年 度

小学校教員資格認定試験

教職に関する科目 (Ⅱ)

体 育

注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成 27 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、すべて解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正する時は、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があつてから 50分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があつたら、直ちにやめてください。
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。

【マーク例】

(よい例) 

(悪い例) 

問 1 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、体育科の目標として「適切な運動の経験」が示されている。この「適切な運動の経験」の中で、児童の運動への能力・適性、興味・関心等の状況に即した指導を、意図的、計画的に展開するために必要なこととして、解説に示されていないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 児童の心身の発達の特性の把握
- イ 施設や気候条件への配慮
- ウ 学習内容の選定
- エ 運動の課題の組合せ

問 2 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)に示された体育科の内容では、運動領域の構成が示されている。その領域構成の表で、第 1 学年から第 6 学年まで連続して示されているものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 走・跳の運動遊び
- イ 表現リズム遊び
- ウ 体づくり運動
- エ 水遊び

問 3 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 1 学年及び第 2 学年の「A 体づくり運動」領域の中の「ア 体ほぐしの運動」の「[行い方の例]」として示されていないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うこと。
- イ リズムに乗って、心が弾むような動作で運動を行うこと。
- ウ お互いの体に気付き合いながらペアの運動を行うこと。
- エ 動作や人数などの条件を変えて、歩いたり走ったりする運動を行うこと。

問 4 次のアからエの文は、器械運動の指導について述べたものである。適切でないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア マット運動では、開脚後転を伸膝後転の予備技として位置付けて、指導することが望ましい。

イ 跳び箱運動では、頭はね跳びを台上前転の発展技として位置付けて、指導することが望ましい。

ウ 跳び箱運動では、かかえ込み跳びを開脚跳びの発展技として位置付けて、指導することが望ましい。

エ 鉄棒運動では、両膝掛け振動下りを片足踏み越し下りの発展技として位置付けて、指導することが望ましい。

問 5 次の文章は、『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)における第 5 学年及び第 6 学年「F 表現運動」の「イ フォークダンス」の「踊りと動きの例示」である。適切でないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア マイム・マイム(イスラエル)などシングルサークルで踊る力強い踊りでは、みんなで手をつなぎ、力強くステップを踏みながら移動して踊ること。

イ 日本の民踊に共通する踊り方の特徴をとらえ、阿波踊りなどの軽快なリズムの踊りでは軽快な足さばきや手振り、ソーラン節やエイサーなどの力強い踊りでは低く踏みしめるような足取りや腰の動きで踊ること。

ウ コロブチカ(アメリカ)などパートナーチェンジのある軽快な踊りでは、パートナーと組んでボルカステップなどの軽快なステップで動きを合わせたり、パートナーチェンジをスムーズにしたりしながら踊ること。

エ グスタフス・スコール(スウェーデン)など特徴的な隊形と構成の踊りでは、軽快なスキップやアーチくぐりなどをパートナーや全体でスムーズに隊形移動しながら踊ること。

問 6 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 5 学年及び第 6 学年「C 陸上運動」領域の内容として例示されていないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 40～60 m 程度のハードル走
- イ 助走が 5～7 歩程度の走り高跳び
- ウ 40～60 m 程度のかげっこ
- エ 助走距離が 15～20 m 程度の走り幅跳び

問 7 次の文章は、『小学校学習指導要領』(平成 20 年 3 月)における第 1 学年及び第 2 学年「D 水遊び」領域の内容の一部について述べたものである。空欄〔 A 〕から〔 C 〕に当てはまる正しい語句の組合せを、下の解答群アからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

(1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。

ア 水に〔 A 〕遊びでは、水につかったり〔 B 〕すること。

イ 浮く・もぐる遊びでは、水に浮いたりもぐったり、〔 C 〕で息を吐いたりすること。

〔解答群〕

- | | 〔 A 〕 | 〔 B 〕 | 〔 C 〕 |
|---|-------|-------|-------|
| ア | つかる | 移動したり | 水 中 |
| イ | 慣れる | 泳いだり | 水 上 |
| ウ | 慣れる | 移動したり | 水 中 |
| エ | つかる | 泳いだり | 水 上 |

問 8 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 1 学年及び第 2 学年の「E ゲーム」領域の「イ 鬼遊び」の内容として例示されていないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 相手とゴールとの間に自分の身体を入れて相手の得点を防ぐこと。

イ 相手(鬼)のいない場所に移動したり、駆け込んだりすること。

ウ 相手(鬼)にタッチされたり、自分のマーク(タグやフラッグ)を取られたりしないように、逃げたり身をかわしたりすること。

エ 逃げる相手を追いかけてタッチしたり、マーク(タグやフラッグ)を取ったりすること。

問 9 次の文章は、『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 5 学年及び第 6 学年の「G 保健 (3) 病気の予防」の「ウ 生活行動がかかわって起こる病気の予防」の内容について述べたものである。空欄〔 A 〕から〔 C 〕に当てはまる正しい語句の組合せを、下の解答群アからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

生活行動がかかわって起こる病気として、心臓や脳の血管が硬くなったりつまったりする病気、むし歯や歯ぐきの病気などを取り上げ、その〔 A 〕には、糖分、脂肪分、塩分などを摂りすぎる偏った食事や〔 B 〕を避けたり、口腔の衛生を保ったりするなど、健康によい〔 C 〕習慣を身に付ける必要があることを理解できるようにする。

〔解答群〕

〔 A 〕 〔 B 〕 〔 C 〕

ア 治療 過食 運動

イ 治療 間食 生活

ウ 予防 過食 運動

エ 予防 間食 生活

問10 発育期に特に大切な栄養素に関する記述のうち、誤っているものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア ビタミンB群は、水溶性ビタミンの一種で、体内では糖質やアミノ酸の代謝等に関わる酵素の補酵素として機能し、体の調子を整える。

イ タンパク質は、身体を構成する重要な成分の一つであり、生体内の反応に欠くことのできない酵素やペプチドホルモンなどの原材料となる。

ウ カルシウムは、リン酸と結合して歯や骨の主成分となるほか、電解質として細胞分裂や細胞同士の接着などに関与する。

エ ビタミンAは、脂溶性ビタミンの一種で、カルシウムとリン酸の恒常性を維持することで、成長を助ける。

問11 新体カテストの反復横とびの準備に関して、100 cmの間隔で床面に3本のラインを引かなくてはならない。中央ラインから両側100 cmの位置について、正しいものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 中央ラインの左側を基準として両側のラインの左側の位置

イ 中央ラインの中央を基準として両側のラインの中央の位置

ウ 中央ラインの中央を基準として両側のラインの内側の位置

エ 中央ラインの中央を基準として両側のラインの外側の位置

問12 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成20年8月)において、第3学年及び第4学年の「B 器械運動」領域の「イ 鉄棒運動」に「基本的な下り技の例示」として示されていないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 両膝掛け倒立下り

イ 前回り下り

ウ 支持から跳び下り

エ 転向前下り

問13 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成20年8月)において、器械運動系の領域に「逆立ち」や「倒立技」の〔例示〕として示されていないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 側方倒立回転
- イ かえるの足打ち
- ウ ブリッジ
- エ 倒立前転

問14 次の文章は、文部科学省『表現運動系及びダンス指導の手引』(平成25年3月)における第3学年及び第4学年の「リズムダンス」のはじめの段階を想定した単元の指導についての記述である。空欄〔A〕から〔E〕に当てはまる最も適切な語句の組合せを下の解答群アからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

授業のねらい

この単元は、中学年におけるリズムダンスの「はじめの段階」を想定しています。リズムダンスは、ロックやサンバといった、子どもたちが〔A〕リズムに乗って友達と〔B〕ながら全身で弾んで踊ることができれば、そのおもしろさをさらにふくらませることができる運動です。そこで、児童が豊かな〔B〕の中で、リズムに触発されながら〔C〕自由に踊ることができるように、ロックの〔D〕の後打ちのリズムやサンバの〔E〕のリズムの特徴をとらえたよい動きに気付かせていきます。そして、変化のつけ方を工夫したり、友達のよい動きを自分の動きに取り入れたりして楽しさを広げていけるようにしていきます。

〔解答群〕

	〔A〕	〔B〕	〔C〕	〔D〕	〔E〕
ア	知らない	話し合い	繰り返して	ウンタ ウンタ	ウンタッタ
イ	聞きなれた	かかわり合い	即興的に	ウンタ ウンタ	ウンタッタ
ウ	聞きなれた	話し合い	即興的に	ウンタッタ	ウンタ ウンタ
エ	知らない	かかわり合い	繰り返して	ウンタッタ	ウンタ ウンタ

問15 次のアからエの文は、競泳のルールを示している。公益財団法人 日本水泳連盟「競泳競技規則」(平成27年4月)に照らして、正しいものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 平泳ぎは、泳者がいかなる場合でも体が完全な水没状態であってははいけない。
- イ 平泳ぎの両腕の動作は、同時に、左右対称に行わなければならない。
- ウ 自由形は、あおむけの姿勢で泳いではいけない。
- エ 自由形は、スタート後の12.5 mを超えて体が完全な水没状態であってははいけない。

問16 次の文は、第5学年及び第6学年のいろいろな距離でのリレーの指導について述べたものである。最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 一人が走る距離を50~100 m程度とし、テークオーバーゾーン内で、減速の少ないバトンパスをするよう指導する。
- イ 一人が走る距離を50~100 m程度とし、テークオーバーゾーン内で、走りながらバトンパスをするよう指導する。
- ウ 一人が走る距離を40~60 m程度とし、テークオーバーゾーン内で、減速の少ないバトンパスをするよう指導する。
- エ 一人が走る距離を40~60 m程度とし、テークオーバーゾーン内で、走りながらバトンパスをするよう指導する。

問17 次のアからエの文は、喫煙や飲酒と健康について述べたものである。誤っているものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 喫煙すると、せきが出たり心拍数が減ったりするなど、呼吸や心臓のはたらきに対する影響が現れる。
- イ 喫煙習慣により、肺がんや心臓病などの病気にかかりやすくなる。
- ウ 一度に大量の飲酒をすることにより、判断力が鈍る、呼吸や心臓が苦しくなるなどの影響がすぐに現れる。
- エ 飲酒を長期間続けると肝臓などの病気の原因になるなどの影響がある。

問18 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成20年8月)において、第3学年及び第4学年の「G 保健」領域の中の「(2) 育ちゆく体とわたし」の内容として示されていないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 体は、年齢に伴って変化すること。また、体の発育・発達には、個人差があること。
- イ 体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること。
- ウ 心は、いろいろな生活経験を通して、年齢に伴って発達すること。また、心と体は、相互に影響し合うこと。
- エ 体をよりよく発育・発達させるには、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であること。

問19 第5学年及び第6学年のボール運動「ゴール型」における「簡易化されたゲーム」について、次の文章の空欄〔 A 〕から〔 C 〕に当てはまる最も適切な語句の組合せを、下の解答群アからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

攻撃側プレーヤー数が守備側プレーヤー数を上回る状態をつくり出して〔 A 〕をしやすくしたり、コート奥行きや横幅を〔 B 〕コート上で動けるスペースを十分に確保したり、守備側のプレーを制限するフリーゾーンを設定して〔 C 〕入りやすくしたりするなどの工夫が考えられます。

[解答群]

	〔 A 〕	〔 B 〕	〔 C 〕
ア	ボール操作	制限して	得点が
イ	状況判断	制限して	シュートが
ウ	ラリー	広くして	シュートが
エ	状況判断	広くして	得点が

問20 次の文は、『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成20年8月)に示されたボール運動系の技能について述べたものである。適切でないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 第1学年及び第2学年のゲームでは、高度なボール操作技能の定着が示されている。

イ 第3学年及び第4学年のゲームでは、ゴール型ゲーム、ネット型ゲーム、ベースボール型ゲームに関する技能について示されている。

ウ 第5学年及び第6学年のボール運動では、3つの型の運動について攻防をすることが示されている。

エ 第3学年及び第4学年のゴール型ゲームでは、ボール操作やボールを持たないときの動きが示されており、第5学年及び第6学年のゴール型では、ボール操作やボールを受けるための動きが示されている。